

隠岐の島町民生委員・児童委員協議会だより Vol.42



ほほえみ

発行 隠岐の島町民生児童委員協議会
事務局 隠岐の島町役場保健福祉課内
〇お住まいの地域の民生委員・児童委員が不明の場合は役場保健福祉課までお問い合わせ下さい。
電話 (08512) 2-8561

コロナ禍以後の世界

会長 堤 章

令和6年も9月を迎え残り3ヶ月となりました。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

隠岐の島町民児協では、令和2年の春頃からコロナ禍の社会情勢で、様々な事業や活動が自粛・中止となり、委員の皆様も日々の生活を複雑な気持ちで過ごされていたことでしょう。このため広報誌「ほほえみ」が、令和2年2月発行後休刊していましたが、今回発行の9月号から再開されることになりました。

この度のコロナ騒動で、大中小企業等の民間団体やその他の公的機関がIT（情報技術）、AI（人工知能）を駆使し、オンライン会議、オンライン娯楽などを利用した運営管理や営業活動でそれぞれの目的を達成し成果を上げ、人と人の関わり方が様変わりしてきました。将来訪れる深刻な少子高齢化により、私達民生児童委員も、思うような支援活動ができなくなる事が予想されます。

将来、中長期的には我々の活動を補うためにパソコン、スマートフォンなどIT・AIを利用して、

地域の民生児童委員は
地域の身近な相談相手・専門機関への
つなぎ役です

高齢者や要介護者の安否確認や買い物の特便性を良くし、保健福祉に関わる行政関係機関の窓口へ繋ぐ仕組みづくり等が、求められる時代が来るでしょう。

しかし、私達（リアルな人間）は、とりわけ民生児童委員の究極的な役割は、IT・AIのデジタル世界ではなく、リアルなアナログの世界で日本人に古来より受け継がれている伝統、文化、食生活を大切にして高齢者・要介護者・その他社会的弱者と共に、身近に居て接触、交流することが重要で、誰もが健康で長寿に繋がると、医学・科学の専門家が発言しています。正に私達の活動の原点は、リアルな交流活動・精神的支え・信頼関係などを築くことだと思います。

そして、私達民生児童委員は隠岐の島町民でもあります。次の世代の人達に過度な負担をかけないように、一人一人が自立して社会生活ができるよう自身の身体の健康維持に努めましょう。



磯地区部会の活動報告

各機関との連携を深めて

下西地区担当
村上 常和

磯地区部会は、下西地区二名、加茂・今津（岸浜）・箕浦・西田の各地区一名と主任児童委員一名の七名で構成され、日々活動を行っています。二ヶ月に一度、定例会議を開催しています。定例会議では、役場で開催される地域連絡会（磯地区部会から二名ずつ交代で参加）の情報共有、並びに、主任児童委員の活動報告を始め、各委員との情報交換を行っています。定例会には、役場、社会福祉協議会、磯小学校、警察署等、各機関から参加をいただいています。

区においては、毎月一回地域のサロンが開催され、それぞれの委員が参加して地域内の実態を知ること努めています。その内容は、午前中は主に役場の保健師による健康・介護予防指導、社会福祉協議会の職員による詐欺被害防止など、様々な学んだり、生活状況の困りごとの調査等を行ったりしています。午後には、健康体操やゲームなどをして楽しんでいます。

また、子供たちを対象とした、登下校時の見守り等の青パト活動を推進し、学校行事などにも参加しています。特に、年三回開催される磯小学校懇談会では、各地域の役員等も参加して貴重な情報交換の場となっています。

警察署からは、ほとんど定例会に参加していただいています。また、「民生児童委員と警察署との隠岐の島町安全・安心ネットワーク協定」に基づき、特殊詐欺防止、交通安全啓発等、高齢者宅等への訪問活動を行っています。今後、それぞれの関係機関との連携を更に深めて、地域に根ざした民生児童委員活動を展開して参ります。

R5.4 西田サロン

～デッキスティック・ゲーム



▲R5.10 西田サロン

～隠岐病院スタッフを招いて

中条地区部会の活動報告

民生委員として

近石・真杉・都万目地区担当
高野 長樹

隠岐の島を離れて四十五年後、地区の「民生委員」をとの事。何も分からない私に務まるのか？不安ながら引き受けました。

当時の（中学・高校）の近所の方々もそれぞれ年齢を重ねられ、あの人が・・・この人も・・・と当時の顔が思い浮かんできます。押し寄せてくる年の波には勝てません。何れ行く道、出来る事はしてあげたいと思います。

肩書を背負わせて頂き一年半が過ぎ去りました。これと言って何をしたのか時間だけが過ぎ去りました。

- ① 独居宅の訪問と実態把握
- ② 児童虐待の有無
- ③ 困窮世帯の把握
- ④ 行政への繋ぎ役

等、頭の中には「あれこれ」と有るにはあるけど実際には①と④が少々の日々です。今は、これで良いのか？自問自答の日々です。

全国的に「民生委員」の成り手不足が問題になっている昨今ですが、隠岐の島町の場合も欠員地区がある様で難しく感じています。特に隠岐の人は責任感が強い人が多いと思います。民生委員の活動は、やればキリがないと思っています。また深入りも禁物で、各事象毎に先輩方々の助言を得て微力ながら活動に邁進してまいります。



民生委員は地域の見守り役

有木・月無地区担当

仕立 ひろみ

私達が活動している中条地域は、令和六年一月現在では、人口二千五百十二人で、(町ホームページ調べ) 民生委員七人と主任児童委員一名の計八人で受け持っています。

地域は広く公共施設が多く、医療機関、大型商業施設、保育所、小中学校、高校、介護保険施設など多くの人が行き交う地域でもあります。

その中で力を入れていることは、「見守り活動」です。普段はそれぞれの受け持ち地区のパトロールを兼ねての見守りを近所の方に聞いたり、見たりしてアンテナを高くしています。

中条地区のつながりで行っている活動の一つに「なかすじ安全まもり隊」があります。駐在所が中心となり、地域の小中学校、高校の教員、PTA役員、地域安全推進員、少年補導員と交通安全協会支部長、民生委員で構成されています。夏休み前に総会があり、休み中の子供、児童、生徒をどう守っていくかを話し合います。そして実際に、青いランプをつけた家用車で地域をパトロールします。

今日も地域を見守り隊が動きます。



主任児童委員部会の活動報告

コロナ禍を経て

主任児童委員 春木 節子

令和元年12月に新委員3名を迎え、活動もこれからという令和2年春に、コロナウイルス感染症流行により、小学校、中学校が休校になりました。町担当者との話し合いで、乳児健診でのPR活動、地区部会ごとの子育て支援センターでの活動も中止になりました。それでも何かできることはないかと少人数でできる部会や資質向上の為の研修会を実施し、学校が再開されると、それぞれの担当地区の学校へ、年に1回から3回位の訪問を決め、活動してきました。

昨年5月にはコロナウイルス感染症が5類に移行され、少しずつ以前の活動に戻りつつあるところで、今後は、前任の委員さんでまとめていただいた「隠岐の島町における主任児童委員の活動方針(四本柱)」を元に、今必要と思われる研修、訪問等も新たに取り入れ、コロナウイルス流行前の活動に近づけられるよう頑張りたいと思っています。

一、主任児童委員の宣伝活動。

・8つの地区部会の委員さんへ

・乳幼児健診会場で、保護者さんへ

二、教育機関への訪問活動

・保育所、小学校、中学校へ

三、委員としての資質向上の為の活動

・児童福祉係、中央児童相談所隠岐相談室、警察署、教育事務所、社会福祉協議会との情報交換会へ

四、要保護児童地域対策協議会との連携活動

・虐待等保護を要する児童や家庭の取り組み強化へ

各関係機関の方々には、訪問・研修に対し快く受け入れて頂き、委員一同感謝しております。今後とも宜しくお願いいたします。

主任児童委員は地域の身近なおとなとして活動しています

登校時の見守り



学校や子育て交流センター訪問

永年勤続表彰受賞

この度、本町の民生児童委員の方々が次のとおり、永年勤続表彰を受賞されました。心より祝意を表すると共にご報告させて頂きます。

(敬称略)

《永年勤続十二年以上》※現職の会長・副会長

【島根県社会福祉協議会会長表彰】

○堤 章

《永年勤続十年以上》

【全国民生児童委員連合会会長表彰】

【隠岐の島町社会福祉協議会会長表彰】

○山本 弘 ○眞野秀雄 ○金井宗次

○若林富治 ○船田英勝 ○大西みどり

○春木節子

《永年勤続九年以上》

【島根県民生児童委員協議会会長表彰】

○秋庭 肇

里親になりませんか

○子どもたちに家庭のぬくもりを

○子どもたちのために、あなたにも出来る

ことがあります。

「養育里親」(子どもが親と一緒に生活出来るよう

うになるまで養育する)

「養子縁組里親」(養子縁組により養親となる)

他に、専門里親、親族里親もあります。

○里親になるには、特別な資格は必要ありませんが、必要な研修を受講すること、里親希望者又は同居人が欠格事項に該当しないことなどが必要です。

■中央児童相談所隠岐相談室 TEL二一九七〇六



ご存じですか？ 民生委員・児童委員

地域における困りごとのつなぎ役

守秘義務のある民生委員・児童委員は、地域の身近な相談相手です。誰に相談したらよいかわからない介護のことや子育てのこと、ひとりで抱え込まずご相談ください。

<お問い合わせはお住まいの市区町村窓口へ>

単位民生委員児童委員協議会 / 市区町村民生委員児童委員協議会 / 都道府県・指定都市民生委員児童委員協議会 / 全国民生委員児童委員連合会

支えあう 住みよい社会 地域から

ぜんみんじれん 全国民生委員児童委員連合会

事務局より

今年の夏は昨年続き非常に暑い夏でした。お盆明け、少し気温が落ち着いたかと思いましたが、九半月ばを過ぎても夏日が続く日々。涼風の候などと文書にしたためるのも躊躇するほどでした。とは言え、暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったもので、一気に秋の気配が漂い始めています。急激な気温変化に気を付けたいものです。

一方で迷走する台風や豪雨災害も頻発した夏でした。能登地域では元日の大地震に続きまたしても甚大な豪雨災害、通常の暮らしに戻れないままの方々も多くいる中、追い打ちをかける理不尽な事態に言葉もありません。

異常気象や災害等、どこに住んでいても直面する可能性があり、他人ごとではありません。住み慣れた地域で、安心安全に自分らしく暮らせるまちを目指し、平常時から取組みを推進していきたいと思っております。ご協力をお願いいたします。

編集委員

- 佐々木貴美枝 眞野秀雄 堤 文子
- 若林富治 岡島美和子 大上肇子
- 半田恵美子 山下光磨 常角敏